

## 『英国王のスピーチ 王室を救った男の記録』 (2012年)

マーク・ローグ／著    ピーター・コンラディ／著  
安達 まみ／訳    岩波書店

パーティ(のちの英国王ジョージ六世 1895-1952年)は、幼い頃から吃音に苦しみ、公式のスピーチでは神経をすり減らしていた。彼の言語障害を治療し、生涯にわたり支え続けたのは、オーストラリア出身の言語療法士ライオネル・ローグだった。二人が数々の名スピーチを生み出すまでの苦労や、身分を越えた友情、そして当時の王室の暮らしぶりが資料をもとに書かれ、歴史を身近に感じることのできる1冊。同題名の映画もあるよ。



## 『美しき英国パブリック・スクール』 (2016年)

石井 理恵子／著    太田出版

パブリック・スクールとは、主に13~15歳の子どもが通う、エリートのための全寮制の学校です。成績が良いのはもちろん、貴族や上流階級でなければ入学できないところなのです。生徒や卒業生へのインタビューを読むと、パブリック・スクールのことがよくわかります。美しい校舎の写真も多く載っているので、眺めるだけでも楽しめる一冊です。ハリ・ポッターシリーズに登場した、ホグワーツ魔法学校のモデルの一部になった学校も紹介されていますよ。



## 『図説 タータン・チェックの歴史』(2013年)

奥田 実紀／著    河出書房新社

マフラーやシャツ、スカートにズボン。誰でもひとつはタータン・チェック柄の物をお持ちではないでしょうか?日本人にもおなじみのタータン・チェックはイギリスのスコットランドが発祥の伝統的な織物です。タータンは、家ごとにチェックを構成する色や交差の幅などが決まっています。スコットランドの法律によって、保存・保護・登録されています。お洒落なだけではない、タータンの秘密をひもといてみませんか。



## 『アガサ・レーズンの困った料理 (英国ちいさな村の謎①)』(2012年)

M・C・ビートン／著    原書房

経営する会社を手放し、憧れの田舎暮らしを始めたアガサは、引っ越して間もなく村のキッシュコンテストに参加する。目的のためなら多少強引な手段を厭わない性分で、大人気店のキッシュを購入して出品する。ところが優勝を逃したうえに、審査員がキッシュに混入した毒で死んでしまい、手作りでないことがバレてしまう。使用したハウレンソウにドクゼリが混入した不幸な事故という結果に疑いを持ったアガサは、汚名返上も狙い、独自に聞き込み捜査を始める。



## 『小公子』(2011年)

フランシス・ホジソン・バーネット／著  
脇 明子／訳    岩波書店

主人公のセドリックはとても元気で上品なきれいな男の子です。だれもがセドリックのことを好きになります。そんなある日、アメリカで生まれ育ったセドリックは、伯爵である祖父に会うため、イギリスに行くことになりました。祖父は高慢で頑固な人物ですが、セドリックの無邪気で人を思いやる心に触れて、次第に人を愛するということを知っていきます。

## 『図説 紅茶 世界のティータイム』

(2017年)

Ch a T e a 紅茶教室／著    河出書房新社

紅茶の歴史や産地はもちろん、基本的な淹れ方や、物語に登場するティータイムなども紹介されている本書。繊細で優美なティーカップやポットの写真もたくさん掲載されています。中には、一見ただけでは注ぎ口が見つからない、車のかたちをしたティーポットや、「左利きで口髭がある人専用」という使用者をすごく限定したカップなど、面白いものもあります。紅茶文化は敷居が高く感じる、という紅茶ビギナーさんにもおすすめの一冊です。

